

# 第55回労働リーダーシップコース開催報告

金属労協組織総務局主査 上口 智子

2024年10月17日から11月2日まで、京都・関西セミナーハウスにおいて、第55回労働リーダーシップコースを開催した。今年は感染症も落ち着き、感染法上も5類に引き下げられたことから、引き続き感染対策には留意しながら従来の受講生数に戻し、開催した。「時代の求める労働組合の役割」を総合テーマに4本の柱に基づく全人格的教育をめざして38名が受講し、研鑽に励んだ。なお、女性は過去最多だった第46回と同数の7名が受講した。

## 開校式

### 緊張の中はじまる

2024年10月17日(木)、秋晴れの中、10時から開校式を行った。篠笛(森田玲・玲月流初代)の奏楽で始まり、式辞として香川孝三校長(神戸大学名誉教授)が、コースの意義を述べるとともに、受講生を激励した。小原克博名誉校長(同志社大学学長)は同志社大学創立者の新島襄の言葉を引用し「寒梅のごとく風雪があつたとしても抗って道を拓いていくようなリーダーになっていただきたい」と激励した。また主催者代表挨拶として金子金属労協議長が挨拶に立ち、「仲間同士遠慮なく話し合い、充実した日々を過ごしていただきたい」と述べた。

来賓の厚生労働省・森川政策統括官は「このコースで学ばれた知識を



開校式で決意表明を読み上げる受講生代表

もとに労働界のけん引役になっていただくことを期待しています」と激励された。次に関西ブロック・嶋本代表が、続いて、石田光男副校長が挨拶に立ち受講生を激励した。最後に受講生を代表してシャープ労働組合中央専門部長・坂巻加奈子さんが

受講生宣誓を行い、開校式を終了した。

## カリキュラム・プログラム

自分の立つ歴史的背景について学ぶ「縦」、自分の立っている場について学ぶ「点」、自分の住む世界の広がりについて学ぶ「横」、自分の生きる基礎について学ぶ「深」の4つの柱に基づく座学を中心とした幅広いカリキュラムに加え、特別プログラムも実施している。金属労協議長による「開校講演」、金属労協やインダストリアル運動を広く理解するための講義の他、受講生がテーマを決めて金属労協三役と語り合う「特別討論会」三役と語ろう」など、幅広くデイスカッションできる場も設けている。また、京都という地の利を生かした坐禅やお茶室体験など日本固有のカルチャーに触れるプログラ

ムや、鞍馬寺で鞍馬山の自然環境について学ぶ「鞍馬山散策」も全員が参加した。ここでは特徴的なプログラムの中で特別講演とセミナーについて紹介する。

### ①特別講演「経営と人間」

特別講演「経営と人間」は第1回目から実施しているプログラムである。経営者自身の経験を通じて得た経営哲学、経営論や人生観、人とのつながりや育成方法、次世代への提言など語っていただく。今回は、55回の歴史の中で初めて女性の経営者にご講演いただいた。

講師の(株)山崎製作所の山崎おおり代表取締役社長は、実父から板金加工の会社を引き継いだ。社長就任当初、事業継承のピンチを迎えながらも社員全員参加型の会社経営を目指して乗り切った経験を語った。自社プロダクトブランド「三代目板金

香川ゼミ



石田ゼミ



中田ゼミ



上田ゼミ



寺井ゼミ



BBQと朝のレクリエーション



「特別討論会～三役と語ろう」- 三役と楽しくディスカッション



ある日の講義風景「統計学」- Excelを使ったデータ分析に挑戦中



「グループ形成ゲーム」- 初めての共同作業。交渉はうまくいったかな？

「屋」を立ち上げ、女性社員を中心に新しい発想でインテリアやかんざしなどの製品を加工・販売している。また地域活動として地元静岡市でオープンファクトリーの発起人としてイベントを立ち上げ、自社だけではなく周辺の会社とも協力して地元を盛り上げている。社長の発想力・行動力に、受講生も大いに刺激を受けた。

②ゼミナール  
労働組合・職場の課題を指導教授や受講生同士で討議を重ねながら解決案を探求するゼミナールでは5つのテーマに分かれ4回にわたり討議を重ね、最後にゼミナールごとにパワーポイントを使って発表を行い、成果を共有しあった。各ゼミナールのテーマは次のとおり。

◆ゼミナールのテーマ

○香川ゼミ  
『労働組合と国際』～国際社会における労働組合の役割

○石田ゼミ  
『労働組合と職場』～働き方改革を労働組合の力で

○中田ゼミ  
『労働組合と社会』～仕事と処遇 納得性のある給与の水準

○上田ゼミ

『労働組合と企業』～「魅力ある会社・職場づくり」の実現に向けた労働組合の役割

○寺井ゼミ  
『労働組合と働き方』～ワーク・ライフ・バランスと労働組合の役割

受講生自ら企画  
労働リーダーシップコースは受講生による自主運営を基本としている。コースの運営を担う「実行委員会」、討論会のテーマ決めやファシリテーターの役割をする「討論会委員会」、講義の司会進行を行う「座長」、そして朝の体操・散歩を担当する「ラジオ体操委員会」など、受講生は何かしらの役割を担うことが求められている。以下、朝の体操・散歩と受講生自らが企画したBBQ大会について紹介する。

①朝の体操・散歩  
朝の体操・散歩は各班から1名ずつ選出された5名のラジオ体操委員が担当する。毎朝7時15分に駐車場に集合、まずは全員参加しているか確認のための点呼から。全員参加しているのを確認の後、ラジオ体操から周辺の散歩という流れになる。昨年は、散歩のコースも受講生で決定・誘導した。今年は散歩のコースを選ぶことは勿論のこと、各地の方言に

よる「ご当地ラジオ体操」や散歩の代わりに、受講生間の交流を図ることを目的に短時間でできるレクリエーションを取り入れるなど、委員が創意工夫を凝らしていた。コース当初きこちなかつた受講生も、レクリエーションを通してコミュニケーションが深めることができた。

## ②BBQ大会

実行委員会の中から自然発生的に「BBQをやるう」という声が上ががり、BBQ大会を行うことが決定。関西セミナーハウス協力の元、肉・野菜・焼肉のたれなど必要なものを受講生自らが準備し、10月30日に決行した。準備する人、肉を焼く人、肉を取り分ける人と、誰が言いましたわけでもなく自然と役割分担ができていた。お仕着せのプログラムではなく、自分たちで企画から準備まで行ったことで、受講生全体に一体感が生まれた。

## 閉校式—また会う日まで

2024年11月2日(土)朝から出発(たびだち)の集いを行い、受講生一人ひとり、感想を述べ合った。その後、閉校式を行った。式辞として香川孝三校長(神戸大学名誉教授)が「教えるということは学ぶことと同じ。我々講師が皆さんから学ばせ



閉校式後の記念写真



答辞を読み上げる木村級長

ていただいている。この出会いを大切に、人間的つながりを続けていきたい。と激励し、38名全員に修了証書を授与した。主催者代表挨拶として梅田利也金属労協事務局長が挨拶に立ち「労働組合の最大の武器は『人』である。労働組合のこれからを担っていきけるのは、ここにいる皆さんだ。その気概を持って取り組みを行っていただきたい」と述べた。

その後、セミナー担当講師の石田副校長(同志社大学名誉教授)、中田運営委員(同志社大学教授)、上田眞士運営委員(同志社大学教

授)、寺井基博運営委員(同志社大学准教授)が修了生を激励した。受講生代表としての答辞では、第55回級長のJFEスチール福山労働組合・木村健太郎執行委員が研修期間中の思い出を語るとともに、座長・討論会委員・ラジオ体操委員をねぎらった。さらに「今日をあらたな出発点として、試行錯誤を続けながら出会った全ての人とのネットワークを最大限に活用し、新しい労働組合活動の創造に汗を流していく決意です」と、これからの決意を述べた。最後に「卒業の歌」を全員で合唱し、閉校式を終えた。

## 次回、第56回開催へ

労働リーダーシップコース(旧西日本)の修了生は通算1870名、旧東日本コース(第1〜40回)の939名と合わせて、2809名となった。次回、第56回コースは2025年10月16日(木)〜11月1日(土)の日程で開催する。第55回コース受講生からの意見・要望などを参考に、受講生が主体的に研修に参画できるようにプログラムを改善していきたい。

## 第54回コース—再び結集

2024年8月9〜10日、修了生発案・主催による「フォローアップ

## 実行委員会

各ゼミナールから班長、副班長を各1名互選し、計10名で実行委員会を編成、実行委員会の中から1名級長を互選する。コースは受講生の主体的な運営を基本とし、実行委員会がその中心となる。実行委員は次のとおり。

級長：木村 健太郎 (JFEスチール福山労組、中田ゼミ班長)

副級長：萬福 勝行 (JFEスチール福山労組、香川ゼミ班長)

宮脇 さやか (スズキ労組湖西支部、石田ゼミ班長)

藤原 和幸 (ダイハツ労組、上田ゼミ班長)

大津 寛 (全本田労連、寺井ゼミ班長)

実行委員：深町 貴志 (コマツユニオン本社営業支部、香川ゼミ副班長)

江尻 裕一 (パナソニックエレクトリックワークス労組直轄総合支部、石田ゼミ副班長)

大沢 幸春 (パナソニックアプライアンスユニオンくらしアプライアンス支部、中田ゼミ副班長)

坂巻 加奈子 (シャープ労組、上田ゼミ副班長)

森崎 夏代 (パナソニック コネクト労組、寺井ゼミ副班長)

